

ジャスパー・ジョーンズ 「Usuyuki」展

ファーガス・マカフリー東京

2019年11月1日（金）～12月21日（土）

オープニング・レセプション: 11月1日（金）午後6時～8時

ファーガス・マカフリー東京は2019年11月1日よりアメリカ人作家ジャスパー・ジョーンズによる版画とドローイング10作品を展示する「Usuyuki」展を開催致します。1979年から2004年にかけて制作された《Usuyuki》シリーズは絵画4作品、ドローイング15作品、版画5作品から成ります。シリーズのタイトルでもある「薄雪」という言葉は、移ろいゆく天候、不意の訪れや出会い、そしてその後を訪れる突然の旅立ちを連想させます。本展は世の無常、またその言葉に内在する再生 というテーマを通じたジョーンズの展開を提示します。



1952年から53年の6ヶ月間ジョーンズは朝鮮戦争の時代に仙台で駐留し、米軍兵向けに放映される映画や教育目的のポスターを制作していました。ニューヨークへ帰国後も、コロンビア大学で仏教学者の鈴木大拙の講義を受けていた作曲家ジョン・ケージとの交友を通して日本文化への関心を深めていくことになりました。1959年ジョーンズはニューヨークで美術評論家の東野芳明と出会い、以降東野はジョーンズの制作に



ついて数多くの評論を書き彼の作品を日本の聴衆へ幅広く紹介しました。1964年東京に戻ったジョーンズは銀座の美術家会館に3ヶ月間スタジオを構え、その間、武満徹、三木富雄、篠原有司男、南画廊のオーナーである志水楠男らとの交友を深めました。1960年代、70年代を通してジョーンズは南画廊で展覧会を開催し、展覧会オープニングのため度々日本を訪れました。

ジョーンズが「薄雪」という言葉に深い関心を持つきっかけとなったのは18世紀の歌舞伎演目《新薄雪物語》でした。その複雑な筋書きは「薄雪」という言葉に秘められた詩的な意味合いを解き明かしてゆき、愛情、失われた愛、野望、それらを妨げるものといった「この世界の儂く移ろいゆく美しさ」をジョーンズに感じさせました。



《Usuyuki》の連作は24作品全てを通して、グリッド状に区分されたクロスハッチングの画面を基に展開してきます。グリッドごとに振られた番号を基準に、ジョーンズは回転、鏡像、トリミング、反復の効果をもちいてバリエーションを生み出しています。それぞれの作品は、シリーズの根幹をなす絵画作品の構図の、明晰なバリエーションになっており、モチーフに宿る瞑想的とも言える力強さを現しています。スクリーンプリントで制作された《Usuyuki》シリーズ最初の版画は、本展にも出品されているリトグラフ（1979年）です。シリーズの特徴といえるクロスハッチングで構成される三連画では、表面のテクスチャーと絶妙な色使い、ニュアンスが視線を惹きつけます。まるで映画のフィルムや江戸時代の木版画のように、ジョーンズは空間内で時を超えて展開していく内省的な物語を生み出しています。

1980年ジョーンズは、卓越した技術を持つ刷り師である川西浩史、野中健次郎、島田毅がニューヨークで当時設立したばかりの「シムカ プリント アーチスト」でスクリーンプリントの制作に取り掛かりました。本展に出品されているシムカ プリント アーチストで制作されたいくつかの版画のうちの一つである《Usuyuki》（1981年）からは、ジョーンズの複雑な構想が見とれます。スクリーンプリントで印刷された新聞記事の文字を基盤に、その上に青、黒、紫、オレンジ、ベージュの顔料によるストロークが配されています。この作品の元となったミクスト・メディアのドローイング《Usuyuki》（1979 - 83年）も本展にてご覧いただけます。補色関係にある色彩が戯れるスクリーンプリントの三連画《Usuyuki》（1982年）では、その大胆な色の変化が、慎重に意図して配された円形の印と図形によって中断されています。これらの図形はキャンバス上の離れたセクションが繋がったり、部分的に巻かれたり、回転したりする構造を示唆しています。2002年の紙の作品では、シリーズ初期に見られた快活で生き生きとした色味は影を潜め、黒と白の顔料だけを使って結晶のような構造が組み立てられています。後期の作品群は一見するとシンプルですが、鑑賞者に内相を促す要素をやはり保持しています。シリーズ全体を通した色と素材のそれぞれの変化は、流れるように変わっていく感情、雰囲気を読み起こさせ、それはシリーズ名のインスピレーションにもなった乱気流のようなラブストーリーにも通じています。



《Usuyuki》シリーズに取りかかっていた期間にも、「ジャスパー・ジョーンズ 版画回顧」展（1986年 ニューヨーク近代美術館、88年日本巡回）、「ジャスパー・ジョーンズの版画」展（1990年 伊勢丹美術館）、ジャスパー・ジョーンズ 回顧」展（1996-97年 ニューヨーク近代美術館、1997年 東京都現代美術館）など、日本各地で大規模な回顧展が開催され、1993年にジョーンズは日本美術協会から芸術文化の分野で世界的な功績を残した芸術家に送られる「高松宮殿下記念世界文化賞」を受賞しました。ジョーンズが長年にわたり《Usuyuki》シリーズに取り掛かったという事実は、彼の制作において抽象表現と日本哲学との間には、21世紀に入った後も続く重要な繋がりがあることを示しています。ジョーンズが深い洞察を向け続けたモチーフが秘める瞑想的な力が、人間の経験は儂いものだという事を、私たちに再認識させます。

本展の開催に際し、ファーガス・マカフリーは《Usuyuki》シリーズの全容についての初めてとなるカタログを制作しました。ジャスパー・ジョーンズ研究における第一人者であるロバータ・バーンスタインが編集を務め、今回新たに出版されることとなったシリーズ作品制作の様子を捉えたケイティ・マーティン撮影の写真も収録されています。書籍はオンライン、またギャラリーにてご購入いただけます。

ファーガス・マカフリー

ファーガス・マカフリーは2006年の設立以来、元永定正、白髪一雄、高松次郎など、戦後日本美術の国際的な評価を確立させるうえで中心的な役割を担ってまいりました。マーシャ・ハフィフ、ビルギット・ユルゲンセン、リチャード・ノナス、ジグマー・ポルケ、カロール・ラマなど独創性に富んだ気鋭の西洋作家の作品展示も行なっています。日本の美術や文化と深く沿うため2018年3月、ロバート・ライマン展を皮切りに東京・表参道に画廊を開設いたしました。2019年はアリ・マルコポロス展(1月12日-3月9日)、ジャスパー・ジョーンズ展ほか多様なプログラムを開催。

プレスのお問い合わせ：

Tel: 03 6447 2660

Email: tokyo@fergusmccaffrey.com

Images:

1. Jasper Johns, *Usuyuki*, 1981. Screenprint, 54 1/2 x 37 inches (138.4 x 94 cm), Edition of 85 © Jasper Johns
2. Jasper Johns with Tōru Takemitsu at the Gutai Pinacotheca, Osaka, 1964; Courtesy of Jasper Johns Studio, Sharon, Conn.
3. Jasper Johns, *Usuyuki*, 1981. Ink on plastic, 49 1/4 x 18 1/8 inches (125.1 x 46 cm) © Jasper Johns

4. Photographs of Jasper Johns and Hiroshi Kawanishi working at Simca Print Artists, New York, 1980; Photograph by Katy Martin

Map:
(Omotesando station A3 exit)

